

今回は、探究活動を活用した進路実現の報告です。

◇ 岐阜県立看護大学看護学部の合格体験記（渡辺真子さん）です！

高校3年生の春、自分の模試判定を見て、自分には第一志望の大学には合格できないから専門学校へ行こうとし、自分の可能性を狭めていました。そんな時、担任の先生と保健室の先生から可能性を狭めるのはもったいないと言ってくださいました。そして私は再び第一志望の大学を目指し、これまで以上に努力しました。

進路に悩んだことがあった時は、先生など周りの人の意見をたくさん聞き、自分の進路を決めるといいと思います。

私が高校3年間で大切だと思ったこと、ぜひ、後輩の皆さんに参考にしてほしいことをここで挙げたいと思います。

1. SGHの活動 ～模擬国連大会への参加～

私は2年生の時、友達からの誘いで全国高校模擬国連大会に参加しました（右写真）。模擬国連は2日間かけて東京で行われます。事前の準備が本当に大変でした。インターネットで調べて理解するにも時間がかかりました。

当日、会場へ行くと、他の方たちの情報を聞き、理解するだけで精一杯でした。しかし、自分から話をする中で、コミュニケーションの重要性や相手の考えを尊重することの大切さを理解し、実践することができました。ここで身につけた力を一生大切にしていきたいと思いました。

この時身につけたコミュニケーション力は、面接対策に大いに活かすことができ、合格へとつながることができたと思います。



2. 小論文、面接対策

小論文は、たくさん書き、添削していただくことが大切だと思います。数をこなすことで形式や時間配分に慣れ、本番で自分の書きたいことがスムーズに時間内に書くことができます。

面接はどれだけ練習したのかが、合格か不合格かを分ける鍵になると思います。そのため先生にお願いし、回数を積み重ねることが大切だと思います。面接練習を始めたころは、伝えたいことを上手く話すことができませんでした。しかし、同じ質問内容でも回数を重ねる度、自分の伝えたいことを相手に話すことができるようになりました。面接の時は、高校時代自分が本当に頑張った、苦勞したと思うことを伝えることで、自然と良い話し方を身につけることができました。

3. 進路実現のために大切なこと

私は、先生からの紹介で関市役所高齢福祉課へ行き、実際に保健師として働いている方に話をうかがうことができました（次頁写真）。保健師の仕事内容や楽しいこと、大変なことに

関し、実際に働いている方の話をうかがうことで、より自分の目指す保健師像が明確になりました。また、目指す姿が明確になることで勉強も自然と気合が入りました。さらに、面接や小論文で自分の伝えたいことを上手く話す力にもなります。

5. まとめ

後輩の皆さんには探究活動を大切にしてほしいと思います。2年間実践した課題解決型研究では、コミュニケーション力や表現力、データを分析し考察する力など、普段の授業や学校生活の様々な場面で身に付けた力を総合的に駆使することになります。

大変なことではありますが、私も、模擬国連に参加してみて、そうした力を養う探究活動の大切さを身にしみて感じました。

私の場合は、模擬国連大会や大学推薦入試の面接の場でさっそく役立ちましたが、たとえそうではなくとも、大学進学後、あるいは社会人になってから、一生懸命やってよかったと必ず思える日が来ます。

最後に、入試に関するアドバイスです。

推薦入試では評定がとても大切です。そのため定期テストで常に目標を持って取り組むことや、期限までに課題を提出することをおすすめします。

3年になると模試を受験する機会が格段に増えますが、模試結果がA判定であっても、E判定であっても、合否は最後まであきらめないことが大切だと思います。自分を信じて進路実現に向けて頑張ってください。応援しています。

